

I 学校の教育目標

たくましく ゆたかに 立つ

II 育成を目指す資質・能力

自己を客観的に捉える力

IV 学校評価4点セットの学力の重点目標

基礎学力を身につけ、学びに向かう児童集団の育成・自他の違いを認め、互いを尊重する児童の育成

V 学校評価4点セットの学力に関する達成指標

○学期毎の単元テストにおいて、期待値33%以下の学級を国・算ともに11クラス以上にする。○「勉強(新しいことを学ぶこと)は好きです。」の問いに肯定的に回答する児童の割合を全体で83%以上にする。○「単元末・単元時間ごとのふりかえりの場面で、OPPAシートを使って自分の学びを深め次につなげるふりかえりができた。」の問いに肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

VI 授業改善の取組(「授業改善の5点セット」目標達成に向けた組織的な授業改善)

①授業改善テーマ	自ら学び、学び続ける子どもの育成
②授業改善の重点	自立した学びにつなげる見通し・ふりかえり

(研究仮説)

学習の見通しを持つ時間を確保し、メタ認知を含むふりかえりを設定した上で適切な見取り・評価を加えていけば、〈あいあいタイム〉の時間が充実し、自ら学び、深め、次につなげる力を育成することができるであろう。

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
1学期	(イ)学び続ける子の育成のために〈あいあいタイム〉を実施し、学び方を選んだり自分で計画を立てたりする経験を増やします。 (ア)メタ認知の向上のために、授業の終末のふりかえりにおいて、自ら考え、深める時間を保障する。	(イ)担任は算数科において、1単元に1時間以上「自立した学習者」を生む授業実践を行う。 (ア)担任は毎時間のふりかえりで自己・他者評価を行ったり、自己調整したりする時間を保障し、適切な見取り・評価を行う。	・7月の児童アンケートにおいて肯定的に回答する児童の割合 (ア)「OPPAシートを使って、自分の学びを深め、次につなげるふりかえりができた。」を80%以上にする。 (イ)「勉強(新しいことを学ぶこと)は好き。」を83%以上にする。	

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
2学期				

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
3学期				

III 児童・生徒の課題

	学力状況について	学習状況について
児童・生徒の課題	令和7年度実施の日田市学力調査において、国語・算数ともに全般的に全国平均より上回っている。C層が減り、2極化が解消されつつある。一方で多くの問題を時間内に的確に読み解く力においては、個人差が大きく課題が残る。〈あいあいタイム〉の取組により、自分で考えて学びを深める力の育成が徐々にできている。	・「勉強(新しいことを学ぶこと)は好きです。」の肯定的回答は90%だが、D評価(いいえ)は3%で同じ児童(毎学期D)が多い。 ・テストや家庭学習に対する取組状況も個人差が大きい。 ・メタ認知を含むふりかえりに力を入れてきたこともあり、次に繋げられるような言葉が多く見られるようになった。

VII 学習定着状況の把握とフォローの取組 および 個に応じた学習の取組(補充学習・習熟度別指導等) ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
1学期	基礎基本の学力保障 学習好感度の向上	・担任は週末課題を効果的に実施したり、放課後の時間を使ってやり直しの徹底を行ったりすることで基礎基本の定着を図る。キュビナの活用では解説をしっかりと読ませ、解き直しを必ずさせていく。	
2学期			
3学期			

◎=達成(10割以上)、○=概ね達成(8割以上)、△=やや未達成(6割以上)、×=未達成(6割未満)

VIII 学校・家庭・地域の協働の取組 ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
家庭	家庭学習量の確保と質の向上 読書習慣の確立	・保護者は毎学期行う生活習慣強化週間において、「生活万善簿」を活用し、家庭学習の状況チェックを行い、各学年の目標家庭学習時間の実現を目指す。 ・保護者は月2回の「家読デー」において、共に読書をしたり、子どもが読書したりしている様子を見たりし、親子の関わりを持つようにする。	1学期 2学期 3学期
地域	学校支援体制の充実	・学校運営協議会は、地域人材の活用に協力する。	

◎=達成(10割以上)、○=概ね達成(8割以上)、△=やや未達成(6割以上)、×=未達成(6割未満)

IX 令和8年度日田市アクションプランの達成指標・取組指標

1 学校評価4点セットの達成状況

令和8年度学校評価の4点セット 達成指標(学力)の評価	1学期	2学期	3学期

※学期末の評価を1~4で入力(達成指標が複数ある場合は、平均を四捨五入した数値)  
※プルダウンで数値を選択

2 取組指標

① 「楽しくて力の付く授業~新大分スタンダード改訂版~」と自校の【③取組内容】に基づいて、単元計画と本時案(略案)を作成して、授業を担当する全教員が11月までに公開授業(互見授業含む)を実施する。	授業担当者数 人	授業を公開した教員の割合	
		7月末時点 %	11月末時点 %

※割合(%)は四捨五入して整数表示

② 管理職等は、授業観察シートをもとに、経験の浅い教員(採用10年以内)1人に対し学期に3回以上授業観察を行う。	1学期	2学期	3学期

※プルダウンで○、×を選択

③ 計画的に互見授業を実施し、全教員が学期に1回以上自校の教員の授業を参観する(校内研を除く)。	1学期	2学期	3学期

※プルダウンで○、×を選択